

エネルギーマネジメント改善支援サービス

費用対効果の高い改善対策を提案

「3.11」後のエネルギー市場構造の変化や世界レベルでの低炭素社会への移行により、省エネ・節電対策のさらなる推進が求められていますが、単なる技術的対策ではなく、企業経営視点でのマネジメント改善による対策の推進が重要なポイントとなります。

アビームコンサルティングは、組織におけるエネルギーマネジメントレベルを定量評価する診断ツールを活用し、継続的な改善に加え、経営層を巻き込んだ全社的なエネルギーマネジメント改善に取り組む体制構築までを支援いたします。

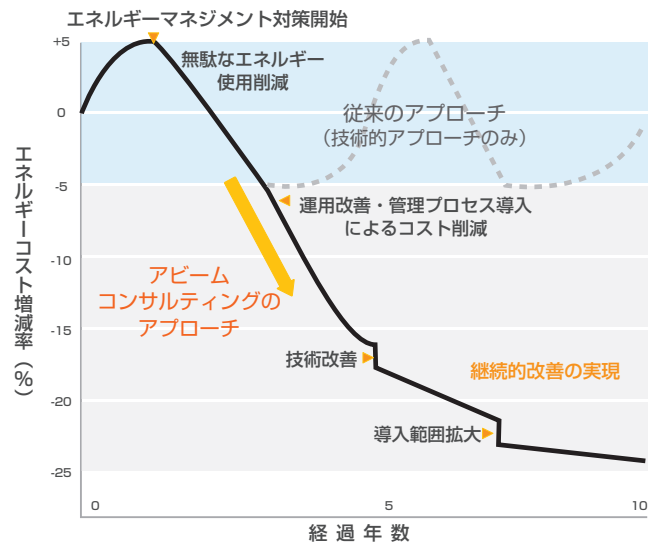
エネルギーマネジメントについての考え方

これまでの日本における省エネ対策は、設備更新や制御システム導入などの技術的アプローチが中心でした。一方でエネルギー管理業務・体制など、目には見えないマネジメント面の対策ができていなかったため、導入設備の性能を十分に活用できず、省エネ効果が持続しないことが大きな課題となっていました。

アビームコンサルティングは、エネルギーマネジメントにおける課題についても明確にして改善を進めていくことにより、企業全体での継続的な省エネを実現します。



削減効果の推移



一般的な省エネ対策との違い

特徴 1

管理業務・体制の対策を提示

通常の省エネ診断では提示されない管理業務・体制の対策を提示します。22の領域に関する約300の対策の中から、優先度の高い対策を抽出します。

特徴 3

経営層を巻き込んだ取り組みの実現

経営層参画のもとで診断を実施します。提示するアクションは経営層が合意した内容であるため、その後のアクションの実現性が高まります。

特徴 2

Yes/No質問による単純明快な診断

組織におけるエネルギーマネジメントレベルの診断ツール「One2Five®」を活用し、認定ファシリテーターによるYes/No質問に回答いただけます。単純明快な二択質問のみで、2時間以内で診断は終了します。

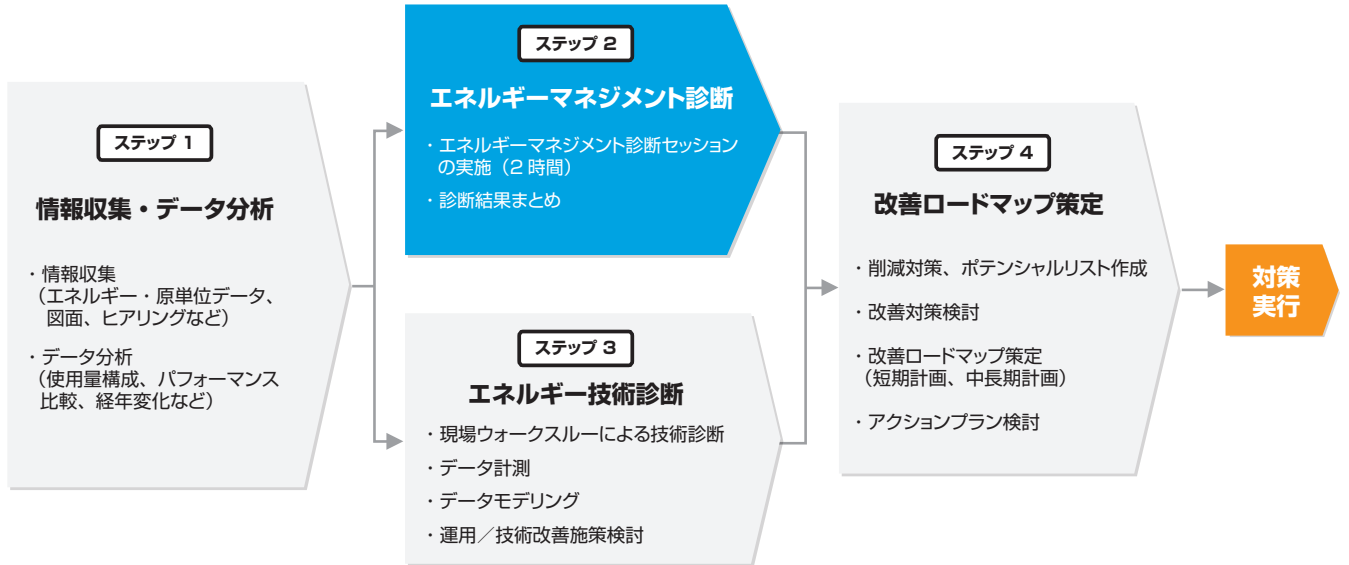
特徴 4

継続的な改善を実現する体制の構築

診断実施企業の状況において最も投資対効果の高い対策を5つ提示します。これらの対策を実施した6-12か月後に再度診断を実施することで、新しい優先対策を提示することが可能です。

マネジメント改善の進め方

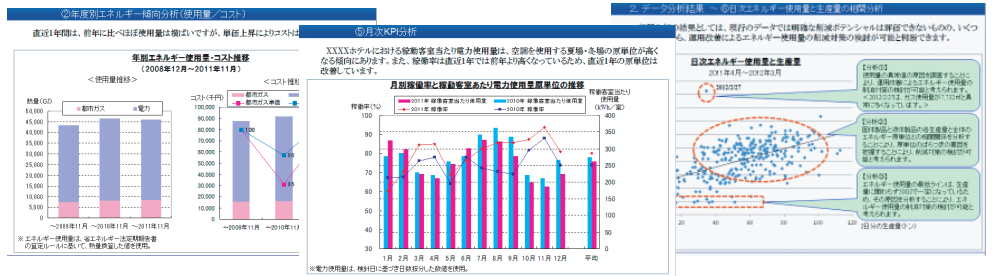
省エネ技術改善の進め方に、エネルギー管理診断のステップを加え、現状のマネジメントレベルを評価することにより、技術面とマネジメント面の両面において優先的に取り組むべき課題とその対策を明確化します。



診断結果イメージ

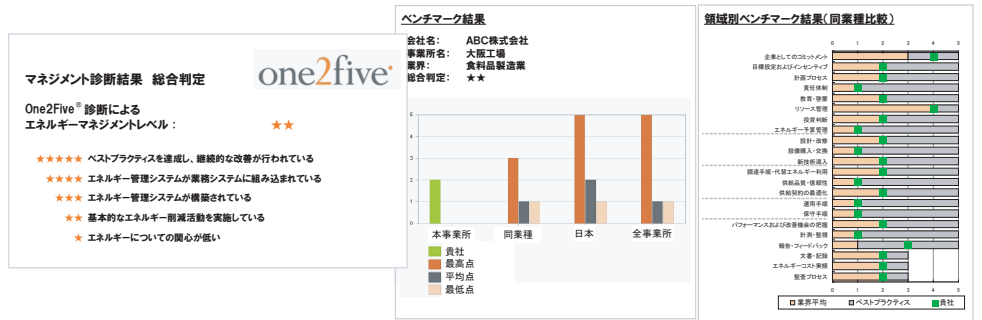
データ分析結果

エネルギー消費量およびコストの全体像、経年変化から原単位（エネルギーパフォーマンス）まで幅広くさまざまな切り口で分析し、マネジメント改善による削減ポテンシャルを算定します。



マネジメント診断結果

エネルギー管理レベルを体系的に診断するため、これまで気づいていなかった次の一手となる対策を見つけることが可能です。



ISO 50001（エネルギー管理システム国際規格）との違い

ISO50001のエネルギー管理システム

マネジメントシステムの定義(文書化)に主眼

継続的なエネルギー管理改善に向けたPDCAサイクルを確立するためのマネジメントシステムの定義(文書化)を要求しています。そのため、次のアクションは組織内で都度検討する必要があります。



One2Five®によるエネルギー管理診断

優先課題とアクションを提示することに主眼

現時点におけるエネルギー管理改善のための最優先課題を提示します。定期的に診断を実施することで、その状況に応じた最優先課題を都度提示する、Step by Stepモデルです。